

六代会長 就任奉告祭

立教184年 6月20日



HON'AI

天理教本愛大教会

TENRIKYO HON-AI GRAND CHURCH

大教会長あいさつ



Yoshihito
安藤吉人

本愛大教会は、安藤^{まさよし}正吉・初代会長が未知の土地名古屋で布教を開始して8ヶ月目の大正3年7月12日に設立されました。

以来100余年、親神様・教祖のご守護は申すまでもなく、歴代会長様をはじめ、幾多の先人たちのご苦勞と教祖のひながたをたどる教会長、ようぼくの皆様のお陰で、今日の姿を見るに至りました。

また、昭和37年10月には本愛ようぼくの真実の結晶として現神殿が竣工し、現在までつとめとたすけの実践の場としての役割を担ってきました。

近年、神殿内部の施設の老朽化が甚だしく、この旬に改修して、大教会へより多くの方に足を運んでいただき快適に過ごしてもらいたいとの思いから、本年はじめより改修工事にとりかかり、このたび無事完成のご守護を頂戴いたしました。

改修に際しては、少子高齢化やライフスタイルの多様化など、社会全体の大きな変化もあらためて実感致しました。

形のふしんだけでなく、心のふしんも考えました時に、急激に、また劇的に変容する社会の中で、親神様・教祖の思召をどのように伝えていくのか、「変えてはならないもの」と「変えなければならないもの」は何か、いま深く思案を致している次第です。

このような激動する時代にあって、六代会長任命の理のお許しを頂戴いたしましたことは、私にとりまして身の引き締まる思いでございます。

まだまだ若輩ではございますが、これまで頂戴したたくさんの方々からの真実に感謝し、世界たすけへ向かって邁進するため、教祖のお心を胸に、何事にも失敗を恐れず挑戦させていただきます。

何卒、お心寄せ、お力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

立教184年 6月20日



本愛大教会略年譜

明治10年 4月 3日	安藤正吉、父・安藤正路、母・うめの長男として出生	平成 4年10月27日	安藤正治、青年会本部委員長を拝命
42年11月 5日	安藤正吉、初席を運ぶ	5年 2月26日	安藤正治、五代会長就任
43年11月 2日	安藤正吉、おさづけの理拝戴	5月22日	創立八十年記念祭・会長就任奉告祭・上段改修奉告祭
45年 7月14日	安藤正吉、天理教校別科修了	11月28日	創立八十年記念祭御礼団参
大正 2年11月25日	安藤正吉、名古屋布教を開始 集談所を開設	6年 9月25日	教祖百十年祭決起団参
3年 7月12日	本愛宣教所設立	7年 9月26日	五代会長・安藤正治、少年会本部委員を拝命
13年10月 4日	本愛支教会に昇格	9年 6月22日	婦人会本愛支部第七十回総会。婦人会長・中山まさ様御臨席
昭和 6年 3月 2日	神殿移転建築落成奉告祭	10年11月14日	ようばく決起大会開催
9年 1月30日	本愛分教会に昇格	12年11月23日	青年会本愛分会第六十七回総会 青年会長・中山善司様御臨席
11年11月28日	安藤治正、二代会長就任	14年 6月30日	育成棟竣工式「育成舎」と命名
12年 6月13日	分教会昇格並びに二代会長就任奉告祭	15年 3月25日	詰所敷地拡張工事完了、披露式
13年 7月 4日	初代会長夫人・安藤ふく出直し	16年 5月15日	創立九十周年記念祭執行
18年 7月23日	本愛大教会に陞級	11月28日	創立九十周年記念祭御礼団参
11月 9日	大教会陞級奉告祭	17年 1月13日	春季大祭に三代真柱様御巡教
23年12月26日	初代会長・安藤正吉、本部神殿おたすけ掛を拝命	18年10月28日	五代会長安藤正治、本部布教部布教一課長を拝命
25年10月 2日	二代会長・安藤治正、天理教総務・厚生部長を拝命	19年 4月27日	四代会長・安藤欣子出直し
26年 7月 2日	本愛詰所の竣工・開所式	5月20日	婦人会本愛支部第八十回総会。婦人会長・中山はるえ様御臨席
27年11月13日	全国単独布教師派遣壮行会	7月25日	詰所改修ふしんが完了
30年 4月18日	初代会長・安藤正吉、本部准員を拝命	20年10月26日	道の後継者おやさとの集い開催
32年12月19日	初代会長・安藤正吉出直し	22年11月21日	創立百周年決起団参
37年10月12日	神殿落成奉告祭	24年10月13日	神殿竣工50年・感謝の集い開催
39年10月13日	創立五十周年秋季大祭	12月 3日	安藤吉人・ちかい結婚式、披露宴
11月26日	安藤慶郎・三代会長就任	25年 3月	部内教会で躍進の集いを開始（～26年 5月）
12月23日	三代会長就任奉告祭	26年 6月 1日	創立百周年記念祭
47年 2月 5日	二代会長・安藤治正出直し	28年10月27日	安藤吉人、青年会本部委員長を拝命
48年 5月 7日	創立六十年記念祭、現客殿竣工	令和 3年 3月26日	安藤吉人、六代会長就任
52年 1月 9日	三代会長・安藤慶郎出直し		
3月26日	安藤欣子、四代会長就任		
5月 7日	四代会長就任奉告祭		
56年 6月28日	第百母屋本愛詰所竣工式		
58年11月12日	創立七十年記念祭		
62年10月 1日	信者会館「華洲館」竣工式		

歴代会長の歩み

■初代会長 安藤正吉

Masayoshi

安藤正吉は家族の身上から入信。別席を運び、天理教校別科を卒業して後、周囲の反対を振り切って道一条に切り替えていった。

大正2年、妻と共に名古屋で単独布教を開始。熱心な布教と信者への丹精で、翌年には本愛宣教所を設立。同13年には支教会に昇格した。昭和6年には現在地に神殿建築を行った。昭和9年1月には、上級・東本の中教会への陞格を機に、本愛は分教会に陞級した。

初代会長は御恩報じと信者の修理丹精に徹し、「布教の本愛」の名声を戦前戦後の教内に鳴り響かせた。

昭和11年、会長職を辞して後任を長男・治正に託した後も、たすけ一条の上に信の生涯を貫き、昭和32年に享年81歳で出直した。

■二代会長 安藤治正

Harumasa

戦時下の昭和18年、本愛は大教会へと陞級した。終戦後は速やかに教勢を立て直し、復元の声とともに、社会福祉事業にも取り組んだ。

昭和26年には信者詰所を建設。翌年打ち出された教祖70年祭活動では、本愛からも80人の単独布教師が全国各地へ派遣された。

昭和39年の創立50年に向けて、初代会長宅建築と神殿建築を打ち出した。新神殿の起工式は昭和36年に行われ、翌年落成した。



初代会長正吉・ふく夫妻

正吉(中央)、治正(左)、慶郎(右)
(昭和32年、東京駅で)



■三代会長 安藤慶郎

Yoshiro

三代会長はちばへの御恩報じに真実を尽くす一方で、海外布教にも心血を注いだ。海外への人材派遣をはじめ、自身も世界各地へ巡教に赴き、広く丹精を行った。昭和46年の大教会長夫妻による海外巡教では、海外拠点4カ所が設立された。

昭和42年には大教会神殿を囲む塀ぶしんが、また創立60年記念祭をめざす活動の一環として、大教会駐車場用地の買収、客殿の建築が行われた。

昭和51年に病に臥して入院。一時、小康を得るも、翌年1月、48歳で出直した。四代会長には会長夫人・安藤欣子が就任。同年5月に会長就任奉告祭が執行された。

■四代会長 安藤欣子

Kinko

昭和56年、教祖百年祭に向けて親里の整備拡充が進められる中、現在地に本愛詰所を移転。詰所は同年6月、第110母屋として竣工した。

百年祭後の昭和62年、初代会長30年祭の記念事業として信者会館「華洲館」の建築を完成させた。

平成3年、創立80年記念祭の執行が発表さ



昭和39年、突然病に臥し、一切の教務を安藤慶郎に委ねた。同年10月、創立50周年秋季大祭が執行された後、担任変更を決意。11月26日、三代会長に安藤慶郎が就任した。

会長職を退いた後も部内信者の丹精に励むが、昭和47年出直。享年68歳。



慶郎・欣子夫妻(信者詰所で)

れ、それと共に神殿上段の改修が決まる。この形のふしんを目標として全部内におつとめの完修を促した。

しかし創立80年を間近に控えた平成4年、突然の身上に倒れ、翌年2月、安藤正吉が五代会長に就任した。その後は療養を続けていたが、平成19年に享年74歳で出直した。

■五代会長 安藤正治

Masaharu

平成5年5月22日に執り行われた創立80年記念祭は、上段修築奉告祭と会長就任奉告祭が併せて行われ、「三慶節」として盛大につとめられた。

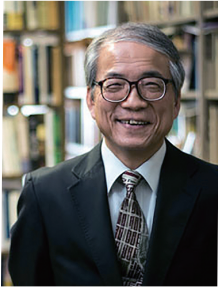
本愛信者の布教に対する意識を高めようと、新たに布教師練成道場を開設、平成7年には修養科生の大募集も打ち出した。

創立90周年記念祭に向かう平成14年には、育成棟の普請、翌年には詰所駐車場拡張を行った。また大教会創立100周年を5年後に控えた平成21年には、新境内地拡張を発表した。100周年へ向けた活動として、大教会で「教会長ようほく錬成会」を、また各教会で「躍進の集い」を開催。現在の神殿が竣工して満50年を数える平成24年には、「神殿改修ふしん」として、境内地を囲む塀の改修等を行った。

令和2年1月、翌年の会長交代を発表。令和3年3月、長男・安藤吉人が六代会長に就任し、今日の奉告祭を迎えた。



祝辞



(さわい・よしつぐ)
天理大学名誉教授、同
大学おやさと研究所・
囑託研究員。Ph.D.
(ハーバード大学)、博
士(文学)(東北大学)日
本宗教学会・常務理事、
宗教倫理学会・顧問

澤井義次 天理大学名誉教授

本日、本愛大教会六代会長就任奉告祭に際して、安藤吉人君の大学時代の恩師として、一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。本日は、誠におめでとうございます。

吉人君が天理大学宗教学科に在籍しておられたとき、私はちょうど宗教学科主任を務めさせていただいておりました。吉人君は2回生の秋から3回生の秋まで、学科会「成人会」の委員長を務められました。

今もなお、懐かしく思い出されるのは、『奈良新聞』(2004年7月11日号)に、成人会がそれまで40年にわたり地道に行ってきたハンセン病への取り組みが、「ハンセン病と成人会」と題して写真入りで大きく掲載されたことです。委員長の吉人君が中心となってまとめてくれた、ハンセン病療養所への面会ひのきしん活動の内容が特集され、教外の方々からも注目されました。併せて、委員長の吉人君の印象深いエッセーも掲載されました。成人会のそうした信仰活動が認められ、「国際ソロプチミスト奈良」のクラブ賞が授与されました。吉人君をはじめ、学生のみなさんとともに、受賞を喜ばせていただいたことを鮮明に覚えております。

今後は、大教会長として大教会につながる方々の先頭に立って、世界たすけへ向けて、お道の教えと信仰にもとづく真の生き方を現代社会の人々に伝えていかれることとなります。どのような中も、これまでと同じように常に心勇んでますますご活躍されることを心よりお祈りしております。



(うの・あきじろう)
教会本部青年、青年会
本部前副委員長

宇野明二郎 教会本部青年、天理教青年会前副委員長

このたびは、本愛大教会六代会長就任奉告祭を迎えられ誠におめでとうございます。

私は、尊敬する吉人さんと青年会本部委員の御命を拝し、多くのことを学ばせていただきました。特に副委員長として委員長の吉人さんの傍で過ごした時間は、「後継者講習会」「青年会長様御成婚」「創立百周年」「青年会本部移転」と怒涛の3年間であり、私にとって一生の宝であります。

このまたとない節目を乗り越えることが出来たのも、真柱様、青年会長様の御心に添い、進むべき道を示し続けられた吉人さんがおられたからにほかなりません。特に、見識高い吉人さんからの提案には多くのことを学ばせていただきました。時には衝撃的な提案もあり、私を悩ませ休ませてはくれませんでした。それは吉人さんの先見の明によるものであり、進むべき道を示してもらったものと感謝しております。また、青年会の係員のことで談じ合う機会もたびたびありました。常に一人ひとりの将来を見据え、親神様・教祖の思召に沿って、人を愛し、育て導くおたすけの姿勢を学ばせていただきました。

これから、また吉人さんと御用に励むことができる日を楽しみにしております。吉人さんらしく、陽気な心でご活躍されますことをご期待申し上げるとともに、本愛大教会のさらなるご発展を祈念しております。



前会長あいさつ



Masaharu
安藤正治

平成5年5月に本愛大教会長に任命いただいてより、28年間、夫婦共々大過なくお連れ通りいただきました。

その間、本愛教信者の皆様方には、真心をつないでいただきまして本当にありがとうございました。


在任中を思い返せば、平成14年に育成舎等が竣工し、翌15年に本愛詰所の駐車場が約330坪拡張されました。また、平成23年には、本愛の海外拠点の一つである、台湾の本愛慶心教会が移転し、翌24年、神殿を囲む塀が全面改修されました。

それ以外にも、本愛の様々な布教活動、教会活動を絶え間なく遂行させていただけたのは、親神様・教祖の御守護はもちろん教信者の皆様方のお心寄せの結果であると感謝の心でいっぱいであります。

これからは前会長として、いままでと変わることなく本愛の布教線が少しでも大きく展開していけるよう、尽力していく覚悟であります。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

本愛大教会 活動目標



喜びの旬
おたすけの日々
楽しみの道



天理教本愛大教会
453-0821
愛知県 名古屋市中村区 大宮町 1 丁目 60 番地

